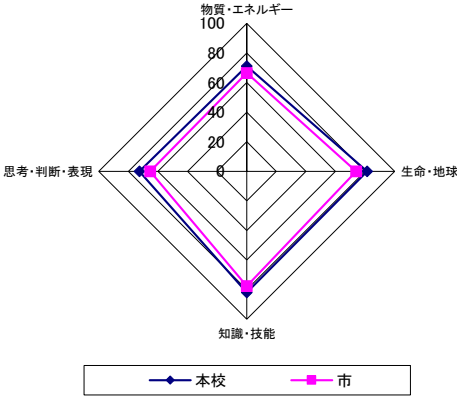


宇都宮市立東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.1	66.5	66.3
	生命・地球	81.4	74.0	72.6
観点別	知識・技能	81.9	77.6	78.2
	思考・判断・表現	72.5	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、71.1%であり、市の平均を4.6ポイント上回っている。 ○ふりこのきまり、物のとけかた、物の燃え方において、知識・理解、思考・判断・表現の設問全てで、市の平均を上回っていることから、科学的な事象からその性質や規則性を多角的にとらえ、的確に表現する力が身に付いてきていると考えられる。 ●電流のはたらきでは、電磁石の性質をもとに課題解決の方法を的確に判断して表現すること、水よう液の性質では実験器具の使い方やデータの見方など基礎的な内容の理解に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎基本の確実な定着を図るために単元ごとの重要事項やキーとなる言葉の理解を確実にして学習を進めていく。特に授業の導入時や実験や観察の始めに学習の目的を明確にする。 ・児童の興味・関心に応じて発展的な内容も取り入れて、科学的な面白さに触れられるようにしていく。
生命・地球	平均正答率は、81.4%であり、市の平均を7.4ポイント上回っている。 ○天気の変化、植物のつくりとはたらき、生物とかんきょうでは、全ての設問で市の平均を上回っており、日頃から日常生活に関連が深い内容について興味・関心をもって取り組んでいると考えられる。 ●動物のからだのつくりとはたらき、月と太陽では、いくつかの設問で市の平均を下回った。だ液によるでんぶんの分解や消化のしくみ、月と太陽の位置関係による見え方の実験など、日常からやや離れた事象について課題が見られた。	・毎日の生活の中で、身の回りにある疑問や不思議な事象を大切にし、常に問題意識をもって生活できるような雰囲気を作成していく。 ・体の内部のつくりや月と太陽など日常からやや離れた事象を扱う際には、より実感を伴って学習に取り組めるようICTを積極的に活用するなど教材や教具を精選していく。